

第1号議案

2021(R03) 年度事業・決算報告 ならびに監査報告

1. 2021 年度 事業報告
2. 2021 年度 決算報告
3. 2021 年度 監査報告

1 . 2021 年度 事業報告

2021 年度事業ならびに活動報告

特定非営利活動法人 安全工学会

定款第3条 (目的)

この法人は、主として産業に関わる安全の諸問題を広く工学的に調査・研究し、各種災害の防止のための知識・技術の向上及び普及を図り、もって産業及び学術の発展並びに社会の安全安心の獲得に貢献することを目的とする。

2021 年度も、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の拡大 (以下「コロナ禍」) に、世界中が、社会全体が、大きな影響を受けた。この拡大防止と罹災抑止が、すべての学会活動の前提条件となるが、許される限りの範囲で通常の活動を取り戻すべく注力し、また対応措置として定着しつつある会議やセミナーのインターネット開催の手法などの取り込みと活用に努めた。

1. 事業活動報告

2021 年度、これまでの様々な会議体での議論を通じて得られた 6 つの要点、

- (1) 教育、
- (2) 継続的ビジョンの見直し&設定 (システム)、
- (3) 研究会企画、
- (4) 防災と安全工学、
- (5) 化学プロセス安全、
- (6) 学会収支 (社会貢献の指標として)

(昨年、一昨年度の議案書参照)

に対して得られた新たな構想 (産業防災研究会の立ち上げ、安全工学会将来構想研究会の準備など) を受け、主に (3) 研究会企画 (学術委員会所掌) の遂行に努めた ((4) 産業防災/32 回開催及び研究発表会での GS 発表、医療安全/6 回開催、いずれも Web)。

学会の柱の一つと位置付ける (5) 「化学プロセス安全」については、2021 プロセス安全シンポジウムを開催 (第 54 回安全工学研究発表会と合同開催) し、今後も継続の方向とし、(1)、(2)、(6) については、コロナ禍下、具体的な進捗は乏しかったが、インターネット開催などを組み込みながら、可能な範囲での実施に努めた。

具体的には、『(1) 教育』については、地域企業支援セミナーの講師派遣活動の範疇で、地域大学への企業講師の派遣などに努めた。

将来に向けて、企画委員会がマイルストーンを作成し、学術委員会が遂行することとしたが (第 293 回 (2019. 7. 12) 及び 294 回 (2019. 11. 13) 理事会) が、コロナ禍が起り昨年度は停滞を余儀なくされた (CSO の具現化など)。

『(2)継続的(学会) Vision の見直&設定(システム)』についても、理事会に加え、企画委員会を介して提言を行う若手学会員を核とした安全工学会将来構想研究会が発足したが停滞した。しかしながら今後に向け、Web 会議の技量向上を得、若手メンバーの研鑽・情報交換の場として、具体的な問題提起や提言の発信の場を整える準備はできた。

『(3)研究会・研究部会の企画』については、前述の(1)～(6)の要点の検討中で、手段の一つとして効率的に(トップダウン型/産業防災研究会など)、またより広い会員からの発意を組み上げる形で(ボトムアップ型/医療安全研究会など)、運用を活性化し、展開し、いくつかの活動の種が顕在化した。

『(4)防災と安全工学』については、産業防災研究会が、産業界でのコロナ禍の実態を把握するアンケートを実施し解析結果の一部を第54回研究発表会のジェネラルセッションで発表した。さらに「外的要因による障害」(NATECH、コロナ禍などの感染症拡大を含む)に係る産業界の取り組みのフレーム(もしくはプラットフォーム又は共通概念)の構築についての取り組みを始めた。

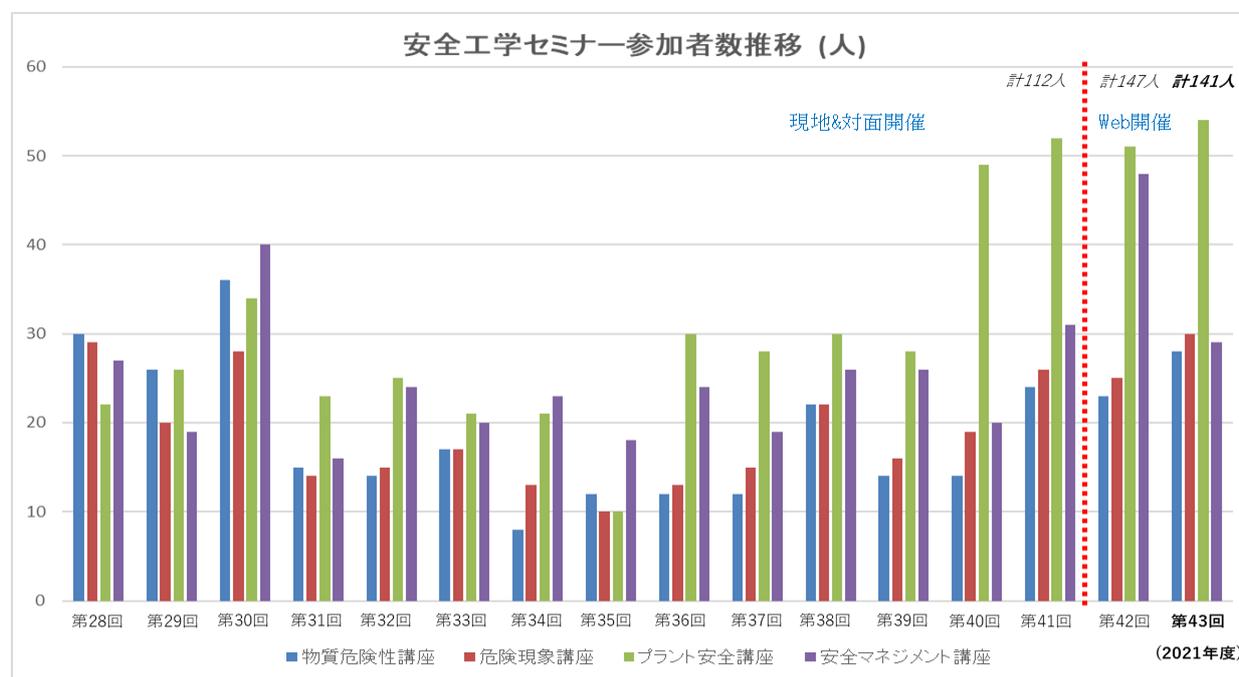
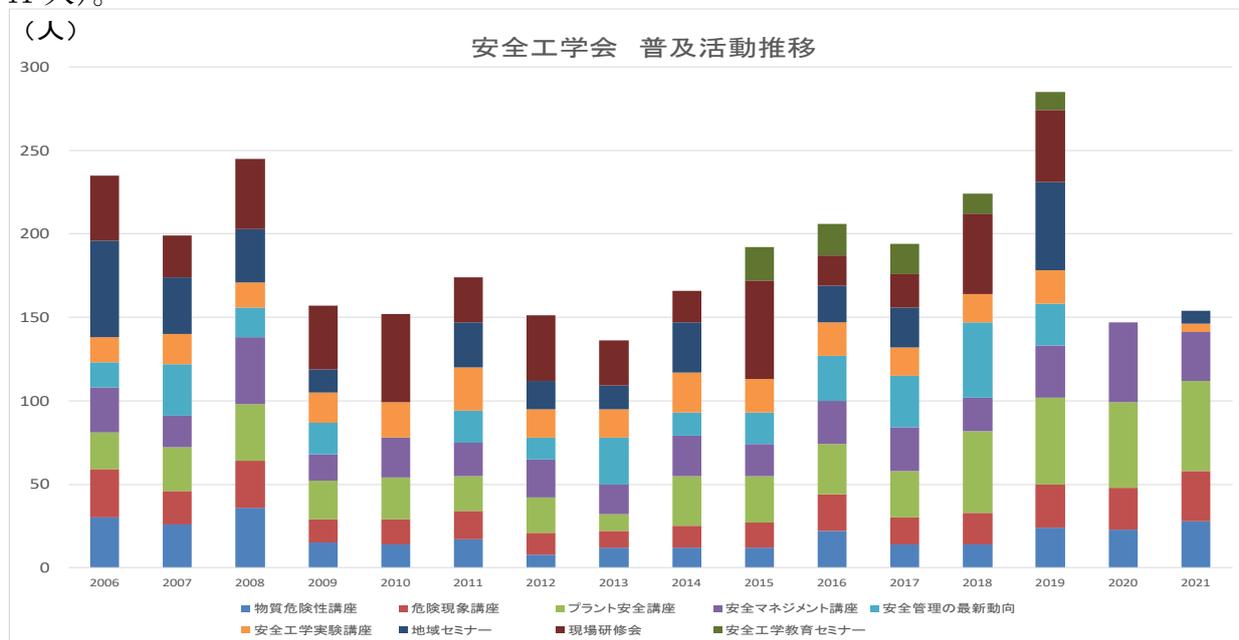
『(5)化学プロセス安全』については、2017年度のCCPSのGSPSの開催を機に、2018年度/岡山、2019年度/四日市、2020年度/Webと開催してきたプロセス安全シンポジウムを、2021年度も継続して開催(Web/研究発表会と合同開催)した。「学」界を交え、製造現場の実際の安全について情報を交換し、相互に啓発し研鑽を積む、また「学」界がこれに加わることのできる、貴重な場を、継続して提供した。

『(6)学会収支(社会貢献の指標)』については、消費税10%化を踏まえて、会費の適正化を軸に検討してきたが、さらに学会の付加価値の在り方を加味して検討する方向で、学会の将来構想を具体的に詰め目標とする成果を会員の方々に明確に説明して、充分なご理解を頂ける額を示す方向で進めることとなったが、コロナ禍の影響で停滞した。

2021年度の学会の研究教育事業は、COVID-19の広がりで引き続き困難な環境下、7月の安全工学シンポジウムはWeb開催となった。12月初頭の第54回安全工学研究発表会(54th研発)と2021プロセス安全シンポジウム(2021 PSS)は、化学工学会の協力をいただき同会のWeb会議システム「Going Virtual」を活用し、従来の規模で合同開催することができた(各々170名ほどの参加で計350余名/計93講演、2021PSSのパネルディスカッションは発信のみだがハイブリッド形式で実施)。

2021年度の学会の普及啓発事業は、COVID-19拡大防止と罹災抑止を第一に、可能な範囲でWeb開催を中心に進めた。残念ながら、安全工学現場研修会、災害事例研究会、最新動向講習会は実施する事ができなかった(昨年実施を見送った安全工学実験講座、

地域セミナーは実施した)。実施した安全工学セミナーは、物質危険性、危険現象、プラント安全、安全マネジメントの 4 講座を Web 開催した。移動経費、旅費宿泊費がなく、聴講者の拘束時間が短い Web の利点もあり、多くの聴講者を得ることができた(対面現地開催した 2018 年対比で 138%、2019 年で 106%、Web 開催の 2020 年対比で 96%/141 人)。



安全管理の最新動向は、内容の更新時期もあり開催できなかった (2022 年度へ)。

Web 開催の強みを取り入れながら、定員の縮小などコロナ禍の状況に応じた修正を適切に加えることに務めた。また周辺学協会や工業会との連携、一歩進んだ他学会との共

同企画の推進など、前記の 54th 研発と PSS 2021 合同開催の Going Virtual を通じたの化学工学会との協力はあったが、横串学会の真価を発揮するまでには至らなかった。

安全工学会誌は、会員の研究成果の発表の場として、また学会からの知識・情報の発信の場として、重要な役割を果たしてきた。2021 年、第 60 巻は、論文 12 報、小特集「産業用ドローンの普及と安全」、特集「安全文化」など、計 502 頁の構成となった。非常に幅広い分野の論文を受け入れており、この点は世界的にも稀有な存在といえる。オンライン英文雑誌（電子ジャーナル）の創設について検討を進める英文誌小委員会を編集委員会に設けた。

2021 年度の学会の研究奨励・表彰事業は、これまでの玉置功労賞・北川学術賞、論文賞に加え、2019 年度に従来の奨励賞を、優秀・学生講演賞（研究発表会での発表技術を表彰する）と学術技術奨励賞とに分割し表彰している。2021 年度は、玉置功労賞 1 名、北川学術賞 1 名、論文賞 2 名、学術技術奨励賞 1 名、優秀講演賞 1 名、学生講演賞 3 名、計 9 名を表彰した（表彰式は総会に合わせて開催予定）。

2. 事業内容 特定非営利活動に係る事業

2. 1 安全工学に関する研究・教育事業

① 安全工学に関する研究

学術委員会の所掌の医療安全研究会、及び産業防災研究会が活動を推進した。医療安全研究会は、STAMP/STPA の勉強会に続き一歩進んだ解析方法を検討中（6 回開催）。産業防災研究会もパンデミックに対する産業界の対応状況についてアンケートを実施した（一部第 54 回研究発表会で発表 (No. 52) / 32 回開催）

② 安全工学シンポジウム 2021

安全工学を軸とし、33 学会が会した横断的な研究発表会。今回は、昨年続き COVID-19 拡大の状況に配慮し、Web 開催した（参加者計 800 名、安全工学会から 2 セッションの OS 参加）。

開催月日：2021 年 6 月 30 日（水）～2 日（金）

開催場所：COVID-19 に配慮し Web 開催（Zoom / 自所）

参加者数：800 名（第 4 回実行委員会議事録）

主 催：日本学術会議

幹事学会：日本建築学会

共 催：安全工学会ほか 33 学協会

③ 安全工学研究発表会（第 54 回）

及び 2021 プロセス安全シンポジウム

合同開催により相互交流の促進を目指す（合同・Web開催）。

開催月日：2021年12月1日（水）～3日（金）

開催場所：Web開催（機械振興会館に発信センター設置）

発表件数：計93件（研究発表会／82件、2020 PSS／11件）

参加者数：計400名（研究発表会／196名、PSS／200名、他／4名）

④ 研究・教育事業管理

対象委員会・研究会

学術委員会 46回4/12、47回7/7、48回11/12、49回1/14 計4回(Web)

安全工学研究発表実行委員会 4/30、6/17、10/7 計3回(Web)

医療安全研究会 5/23、7/31、9/25、11/1、1/22、3/12 計6回(Web)

産業防災研究会 6/2、6/11、6/16、6/23、6/30、7/7、7/16、7/21、7/28
8/4、8/11、8/18、8/25、9/2、9/8、9/15、9/29、10/7、
10/15、10/20、10/27、11/5、11/12、11/16、11/24、
12/22、1/14、1/27、2/17、3/3、3/17、3/31 計32回(Web)

新規研究会の立ち上げ 数件の候補案件を検討中（詳細は事務局まで）

2. 2 安全工学に関する普及啓発事業

2.2.1 一般普及事業

(1) 会誌“安全工学”

① 発行 印刷物の発行 年6回(第60巻／計502ページ)

② 電子化推進 J-stageの公開 2016年6月発行分～、逐次更新中

(2) 講習会・セミナー

① 第20回安全工学地域セミナー（千葉山武地域）

開催月日：2022年3月10日（木）

開催場所：日本ドライケミカル株式会社 千葉工場

参加者数：8名

② 第19回安全工学実験講座

開催月日：2021年12月23日（木）～24日（金）

開催場所：日本カーリット株式会社 赤城工場危険性評価試験所 群馬県

参加者数：5名

③ 第34回安全管理の最新動向講習会

開催月日：

開催場所： COVID-19の状況に配慮し実施繰り延べ

参加者数：

④ 第43回安全工学セミナー

物質危険性講座 2021年8月19日（木）～20日（金）

危険現象講座 2021年10月22日（木）～23日（金）

プラント安全講座 2020年11月11日（水）～12日（木）

安全マネジメント講座 2021年1月28日（木）～29日（金）

開催場所：Web 開催（学会事務局入居ビルに発信センター設置）

参加者数：各回 28 人～54 人 計 141 人

⑤ 災害事例研究会

COVID-19 の状況に配慮し実施繰り延べ

（本年度も候補の調整にとどまる）

⑥ 地域・企業支援セミナー

日本全国の地域・企業への講師の派遣

計 2 件 (Web 及びハイブリッド)

⑦ 安全教育セミナー

安全教育担当向けセミナーの継続開催の推進

開催月日：

開催場所： COVID-19 の状況に配慮し実施繰り延べ

参加者数：

⑧ 事業所長懇談会の定期的開催

地域毎の工場長・環境安全部長との懇談会推進はおおよそ全国を一巡し（石化協と共催）、次企画を検討中（継続）。

⑨ 普及啓発事業管理

・対象委員会・研究会等

編集委員会

（各月）

計 12 回

普及委員会

（4/28、7/19）

計 2 回

・会誌への広告募集管理

(3) 図書販売・会誌の年間購読販売

学会事務局にて図書販売等を実施する

（安全工学便覧 第 4 版など 販売継続）

2.2.2 普及啓発事業：受託事業

行政官庁（経済産業省等）の新規事業に注目し、受託事業管理委員会管理下、対応可否を検討する。今年度は進展なし。

2.3 安全工学に関する調査及び情報収集提供事業

ホームページを充実させ、会員への情報提供を推進する他、意見交換システムの検討を行った（「掲示板・記事」欄の「会員からの声」に「新型コロナ」に係る発信欄を配置し、まずは事務局長判断で掲載してゆく（継続／掲載 3 件）。継続して、周辺学会や、非会員への「安全工学会」の PR を推進した（催事の情宣依頼など）。

2.4 安全工学研究の奨励及び研究活動等の表彰

奨励賞を改定し、研究発表会での発表を評価し奨励表彰する「優秀・学生講演賞」

と、中堅研究者を奨励表彰する学術技術奨励賞とを創設し、2021年度も、玉置功労賞・北川学術賞、論文賞と合わせて授与した（COVID-19蔓延下、配送のみとなった（個別ラッピング実施））。

2. 5 安全工学に関連する国内外の団体との連携及び協力

安全工学に関連する学協会に加入し、情報を得ると共に、安全工学の発展のために協業を模索する。国際的には、APASES（Asia Pacific Association of Safety Engineering Societies, アジア太平洋安全工学学協会連合）に参加（継続）、APSS、CCPS、ICSI との情報交換を継続、発展させる。

① 諸会費

（社）日本工学会、高圧ガス保安協会、防災学術連携体などに会員として加入（継続）

② 安全工学シンポジウム 2021 他、周辺学会との交流

③ 防災学術連携体、日本化学連合への参加を継続し、接点を模索した。

④ 化学工学会、石油化学工業協会、日本化学工業協会などとの連携を推進。

2. 6 管理業務

① 総会 1 回開催

開催月日：2021年5月25日（火）

開催場所：総会資料事前配布と表決票、及びWebによる開催

② 理事会 4 回開催

開催月日：2021年5月6日（木） 第301回（Web開催）

2021年7月9日（金） 第302回（Web開催）

2021年11月22日（月） 第303回（Web開催）

2022年3月9日（水） 第304回（Web開催）

③ 評議員会 1 回開催

開催月日：2021年5月12日（水）～25日（火）（文書開催）

④ 監事会 1 回開催

開催月日：2021年4月28日（水）（Web開催）

⑤ 委員会

総務委員会 COVID-19 の状況に配慮し実施繰り延べ

企画委員会 COVID-19 の状況に配慮し実施繰り延べ

アドバイザーボード COVID-19 の状況に配慮し実施繰り延べ

⑥ 現場研修会 2 回開催予定

COVID-19 の状況に配慮し実施繰り延べ

以上